



人二倍の練習と努力を重ね、 利府町からフェンシングで 世界に挑む！

「中学生の時に東京オリンピック、フェンシングの女子サーブル江村美咲選手^{※1}の試合を見て、カッコいい！私もやってみたい！」^{まつら}と話す松浦心美^{こみ}さん。中学時代はソフトボール部でしたが、

十符人

「とふとー」

「十符人（とふと）」では、毎月、利府の魅力づくりや魅力発信に貢献している方を取り上げていきます。

利府高校に入学すると早速フェンシング部へ。同年9月には『ネクサスフェンシングクラブ仙台』^{※2}に入会。わずか1年足らずでメキメキと実力を伸ばし、2024年1月の東京都選手権（カデサーブル）^{※3}で全国13位に。国内の様々な大会でも好成績を収め、宮城県高等学校新人戦では見事優勝を果たしています。12月にはドイツで開催されたヨーロッパ・カデ・サ



宮城県利府高等学校2年生 フェンシング部
ネクサスフェンシングクラブ所属・サーブル選手

まつら こみ
松浦 心美さん

2008年生まれ利府町在住。利府中学校を経て2023年利府高校に入学。フェンシング部に入部し、同年9月『ネクサスフェンシングクラブ仙台』に入会。2024年宮城県高等学校新人戦フェンシング・女子サーブル優勝。各種国内大会で好成績を収め、ドイツでの国際大会にも出場。2025年1月時点の国内ランキング（女子サーブル・カデU-17）14位。

「キットに出場し、今年1月のJOC^{※4}が後援する大会でも活躍。サーブルは攻防のスピードとダイナミックな動きが魅力。技が決まった時の快感は最高です」と心美さん。平日は放課後6時半から2時間以上、土日は朝10時から8時間も練習に励む毎日。「まずはインターハイでの上位入賞が目標。ロス五輪を視野に入れ、大学でもフェンシングを続けたい。ドイツの大会に出場した日本選手団の中で高校からフェンシングを始めたのは私だけ。経験不足や身長の高さをカバーできるような人一倍練習を重ね、メンタル強化にも力を入れています」とお話しいただきました。最後には町内の子どもたちに向け、「皆さんも努力することを大切に、気持ちを強く持って頑張ってください」とメッセージをいただきました。



- ※1: フェンシングの種目のひとつ。他に「フルーレ」、「エペ」がある。
- ※2: 国内最大規模の民間フェンシングクラブ。東京のクラブには金メダリスト・見延和靖（みのべかずやす）選手はじめ多数の有名選手が所属。
- ※3: フェンシング選手の年齢区分。カデは満13歳以上17歳未満、ジュニアは満17歳以上20歳未満。
- ※4: 日本オリンピック委員会
- ※5: 第32回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会兼2025年世界ジュニア・カデ・フェンシング選手権大会選考会。（群馬県高崎市）

Good Movement 活動日記 Vol.13 地域おこし協力隊

総務省地域おこし協力隊制度を活用し、利府町の活性化と社会起業家の育成を目指すプロジェクト



公式LINE

『ブランディング×地方創生を学ぼうイベント』開催！

2050年、日本の総人口は約2000万人減少すると言われています。東北の市町村の約7割が消滅可能性都市とされ、宮城県でも19の市町が該当します。このような課題に対し、ブランディングプロジェクトでは、利府町を題材に地域ブランディングを実践的に学ぶイベントを企画しました。月に1回、1年間を通して開催され、座学だけでなく参加者自身が地域の価値を見出し形にしていく実践の場として設計しました。東北を愛する若い世代と共に、利府町の新しい価値を創造していきます。第1回目は約30人の10～30代の若者が集まりました。イベントの詳細やイベントの様子について、ぜひ詳細をご覧ください。



詳細はこちら



メンバーの協力隊に入ったきっかけと今、そして未来について綴っています。

これからも住み続けたい町。 利府町に戻りたいと思う町づくりを。

鈴木 翔太 | 利府町出身 | イベント55プロジェクト | 自動車整備士、携帯電話販売店長を経て24年8月に協力隊に所属。利府町が大好きで若者が利府町に住みたい、戻ってきたいと思えるような魅力ある町づくりを目指します。将来は結婚後もお互い支え合える家族を作れるような結婚相談所を作りたい。



続きはこちら

